

しあわせの空

本校教育目標

第4号

豊かな心と生きて働く力を身に付けた子どもの育成



令和2年6月19日
熊本市立田迎小学校
校長 松本 公一

○もしも時が戻せるなら

ある日、連れ合いから「もし時間が戻せるとしたらいつに戻りたい？」と尋ねられました。小学校、中学校、高校、大学、就職、結婚、子育て……いろんなことを考えました。「その時その時、ベストだと思う判断と行動をとってきたと思うし、後悔はしていないかな。だから、どの時期にも戻らなくていい。」と答えました。

「あの時～しとけばよかった。」という思いは、「もしあの時～しておけばその後の人生が変わっていたに違いない。」という論理の表れだと思いません。確かにその時の選択によってその後の展開は大きく変わることでしょう。しかし、その後の人生が今の人生と比べていいかどうかは誰にも分かりません。

後悔しないでいいように、しっかり考え、判断できる力をつけることも大切ですし、どんな展開になろうとも後悔しないという気持ちも大切だと思います。

現実には時を戻すことができない訳ですから、こんな問いかけをすること自体、現状に対する不満やもっとこんな風になりたいという願望、または単なる空想を楽しんでいるのかと思いつつ、「それであなたはいつに戻りたいの？」と聞き返しました。「そうね、もう出産の苦しさは経験したくないから2人目を産んだ後かな。」……結婚前と言われなくてちょっと安心した私でした。

○打牛打車

実家に掛けてある書の言葉で「だぎゅうだしゃ」と読みます。「車を動かしたければ、その車を引いている牛を打たなければいけない。」という意味だと親から教えてもらったと記憶しています。当たり前のようなことですが、実生活においては、出来事の枝葉末節の部分に目をやり、同じような事象が起きないように対策を講じるといった対症療法的な対応をしていることが多いように思います。

昨年の研修会で講師の先生が、いじめ、不登校、無気力、暴力、規範低下、学力低下等の対策がいくつも講じられてきたが、その根源的な原因を解決することができていないのではという問題提起がなされました。上記の言葉でいうと「打牛」のことを言うておられると考えながら話を聞いていました。

講師の先生がおっしゃるには、「これらの事象は自分に対する不信や不安を起因としているということです。自分が大切だと思えないから、自己不信・孤立感を増していったり、不満・イライラが他者へ向いたりするということになる。ということは自分に対する不信や不安を払拭するために、『まわりの人から認められている』『自分にはよいところがある』『私は一人の大切な人間である』と自分に対する信頼をつけてやるのが大切である」ということを力説されました。教師の声かけ、頑張りや優しさの価値付けの大切さを再確認し、子どもたちの自己肯定感を高めていきたいと思います。

ところでこの「打牛打車」を調べてみると、唐時代の高僧とその後継ぎの問答に出てくる言葉だそうです。座禅することを人が牛車に乗ることに例えられ、仏道には車を打つという法があることなどを解説してありました（正法眼蔵座禅箴）が、凡人には理解が難しいと思ったところでした。